



波 濤

http://www.geocities.jp/hatoh_net/

第 47 号

発行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会

責任者 木村 勝紀

発行日 平成26年7月7日

会員数 625名(平成26年7月1日現在)

『kanagawa way』を全国へ



祝賀パーティ実行委員長
の木村さんの挨拶 ホテル
ニューオータニ(鶴の間)

神奈川同窓会
会長 木村 勝紀

神奈川同窓会の理念と現実を我々は誇りをもって『kanagawa way』と表現しています。これらは全国各地49の同窓会の参考になるのかも知れません。理念とは、

放送大学を卒業・修了した誇りと、放送大学を母校とする愛校心と、社会的存在としての社会貢献を絆に活動することです。そして、同窓会の活動を通して神奈川学習センターの発展を願い、更には放送大学全体の発展に寄与したい、これが神奈川同窓会の願いです。神奈川同窓会には数々の特徴があります。

現役在学生の学生団体及びセンター所長を始めとする教職員との緊密で良好な関係は、その最たるものです。また、数々の改革を遂げてきました。財政的に持続可能な同窓会にするため終身会員制を改め会費制(入会金2千円、年会費千円)にしました。平成21年の改正時には、ピーク時の会員数867名に対して556名まで激減させました。実に311名、率で36%です。歯を食いしばって耐えました。平成26年4月1日現在、625名まで回復しました。その間の活動が『kanagawa way』です。会員証の発行、会員名簿の発行、メーリングリスト・ホームページ・広報誌『波濤』等コミュニケーションツールの充実、神奈川同窓会旗の作成、役員・准役員制度の導入、社会貢献活動の継続(プランジヤパン・あしなが育英会)、サークル協議会(同窓会会長が代表を務める現役学生団体との連携・協力・共存共栄)の立上げ、フェスタ・ヨコハマ(学園祭)の開催、会員同士の親睦行事に加えて親交を深める対面行事の弘明寺サロン・茶道同好会・映画研究同好会・太極拳クラブの立上げ等々です。役員・准役員は引続き愛着と情熱をもってお手伝いさせていただきます。

神奈川サークル協議会主催 「春の講演会」

木下 義則

平成26年3月2日の10時から神奈川学習センター第8・9講義室において、神奈川同窓会も所属している神奈川サークル協議会が主催する「春の講演会」が開催されました。

今回お招きした講師は、がん研究・医療のオーソリティーであり大変著名な、日本対がん協会会長・国立がんセンター名誉総裁の垣添 忠生先生(写真)です。当日の会場には百人を超える同窓生・学生が集まり溢れんばかりの状態でした。

演題は「がんと人間と社会」というテーマで、がん研究・医療・将来展望など、人の多様性、ご自身とご家族のがん体験、近親者との死別による悲しみを和らげるためのグリーフケア、がん患者を支えるケアギバーの問題など

について講演をお願いしたいと依頼したところ、快く引き受けていただきました。

講演内容は、まず「がんとはどういう病気か?」という導入部からはじまり、「がんの予防と検診」「がんの診断と治療」と続きました。

- ① 予防できるがんはたばこ対策やワクチン接種等で予防する。
- ② 早期発見できる子宮頸がん・乳がん・大腸がん等のがんは検診する。
- ③ 治療できるがんはきちんと治療する。
- ④ 治せないがんには緩和医療を提供する。



このようにご自身の経験を織り込み丁寧にがんという病気のお話をさせていただきました。

続いて「人が生きるということ」というセクションでは、著書『妻を看取る日 国立がんセンター名誉総長の喪失と再生の記録』に書かれている内容でもありますが、家族としての奥様の病歴について、奥様の希望であった「家で死にたい」に応えるための在宅医療の経験、先生ご自身の経験された喪失感から立ち直る再生の道について、趣味である山登り・カヌー・居合の話題を交えながらお話させていただきました。

最後に「わが国のがん対策」ということでがん医療に対する患者・家族・国民の要望について解説されました。日本では、がんは2.5人にひとりが罹り、年間36万人が亡くなるという大変身近な病気であり、予防と検診が重要です。がんという病気に対するいろいろな思いをあらためて考え直すよい機会となったのではないのでしょうか。

我々に貴重な話題を提供していただいた垣添先生に感謝し筆をおくこととしたいと思います。大変ありがとうございました。

第25回通常総会と種田先生の講演会

佐栞 慎二

5月24日(土)神奈川同窓会の第25回通常総会が開催されました。出席者は47人で別途委任状を提出して頂いた方319人を含め出席者総数は366人でした。木村会長より平成26年度は新しい役員体制で同窓会活動をより一層活発に行いますので、会員の皆さんに積極的な参加を呼び掛けられました。その後議案の審議に入り、全て原案通り可決されました。

総会終了後、種田保穂放送大学客員教授による「生物の色や形にも理由(わけ)がある」との演題で講演を頂き、同窓会会員以外の方も多く参加されました。身近な動物や植物の色や形は機能と結びついていることを分かり易く説明して頂き、眼から鱗が落ちる思いで皆さん熱心に聞いておられました。なお講演会はDVDに記録していますので、もう一度ご覧になりたい方や講演会に参加できなくてご覧になりたい方は同窓会にご連絡ください。

講演会終了後種田教授や藤田事務長も参加して頂き「三代目くれば」で懇親会を開催しました。懇親会では数名の方に放送大学や同窓会に対する思いを語って頂き、和やかな雰囲気では会員の交流を楽しみました。今年1年同窓会での活動を通じて会員の絆が深まることを祈って散会しました。

種田保穂客員教授の公開講演会

「生物の色や形にも理由(わけ)がある」を拝聴して

金田 保男

平成26年5月24日(土)神奈川同窓会第25回総会后、種田保穂 放送大学神奈川学習センター客員教授(横浜国立大学名誉教授)の公開講演会が開催され「地球上には様々な生物が生息していてその色や形にも様々なものがある。それらは意味もなくそうなったのではなく理由があり、生物の色や形は機能と結びついている。」との解説を受けました。

今迄考えた事の無い「エッ！」と思う事ばかりで皆興味津々聞き入り、講演時間が瞬間に過ぎてしまいました。しかも植物や動物の機能を利用した科学(バイオミメティクス)が発達途上にあるとの紹介があり、極めて実用的な学問であることも理解できました。

- ・新幹線の先端の形…速さの追求ばかりではなく「トンネル」で発生する衝撃音を消す。
 - ・カタツムリの殻から汚れないタイル…確かに油性ペンで書いても色はつかない。etc.
- 講演会後の「懇親会」でマジック披露にて盛上げて下さりお礼申し上げます。



種田先生の講演はマジックで始まった。佳境に入るとでんでんむしの殻や新幹線の鼻にも及んだ。



「弘明寺サロン」で絆を!!

弘明寺サロン担当 植地 勢作

「弘明寺サロン」は、「この世の中にあなたが居て、私が居る。それは因です。この世の中であなたを知り、私を知る。これも縁ですね。世の中は因縁で成り立っています。この因縁を結ぶ機会を同窓会に作ってみたい、これが「弘明寺サロン」の趣旨です。」を合言葉に、2011年8月11日に第1回目が開催されました。そして、本年3月で26回を数えました。

この1年間のテーマを振り返ってみますと、講演、散策、ビデオ鑑賞と少しずつ多彩になってきましたが、参加者はまだまだ少なく、当初の狙いにはほど遠い感じです。

- 4月 「4月 ぶらり旅」飛鳥山散策と3つの博物館見学
- 5月 西オーストラリアの野の花(講師:大木陸夫さん)
- 6月 「春の行事」と兼ね、横浜中区散策(東方見聞録の世界、ギリシャ料理SPARTA、ジャズ喫茶CHIGUSA)
- 8月 大連留学体験談>アカシアの大連にさそわれて(講師:澤村雅嗣さん)
- 9月 坐禅と体性感覚(講師:田丸重男さん)
- 11月 予想を超えた南極クルーズ(講師:藤田緑さん)
- 12月 軍記『石山軍鑑』と私(講師:神宮滋さん)
- 2月 中国古代の紙 一徐福は日本に紙を伝えたか(講師:植地勢作さん)
- 3月 DVD鑑賞:HOW DO THEY DO IT ?(ディスカバーリーチャンネルから)

26年度は、同窓会行事や映画鑑賞会とのコラボレーションも加え、講演会、映画・ビデオ鑑賞、散策・見学会とテーマ領域をさらに広げ、また、講演会も成るべく身近なものを多くするように心がけます。

そして、同窓会員相互の談論の時間も充実させ、親しみの



の持てるサロンにしたいと考えています。ぜひ、「弘明寺サロン」に足を向けて下さい。世話役も安達美帆子さんと高垣和子さんが加わり、3人体制で運営致します。

「日本の宝」放送大学と社会貢献活動

西山 哲郎

私は、いままでアメリカ合衆国で4年、中国で3年の海外生活を体験しました。海外からみて日本を思うことは、日本は日本人が思っているより大変住みやすい良い国だということです。文化、人となり、歴史、自然と日本の宝は数多くありますが、私は、放送大学もそのような日本の宝の

一つだと感じています。最高水準の講義を、日本のどこにいても、大学としては比較的払いやすい学費で学べる、このような大学はなかなかありません。また、何歳になっても、また学びなおせる放送大学のような制度がある日本の社会もこれまた素晴らしいと思います。

私がお願いしたいのは、是非、皆様にこのような私達の恩恵を、私達の隣人にも分けることを考えて頂きたいということです。神奈川同窓会では社会貢献活動を通じて、就学支援を行っています。プラン・ジャパン活動では、同窓会から集めた寄付金で、発展途上国の5人の子供たちを支援しています。発展途上国では、生活基盤が整備されていないために、子供も貴重な労働力となっているケースが多々あります。井戸がないので、子供たちが往復何時間もかけて川まで水汲みに行き、学校に行く時間がないといった例です。村に井戸さえ掘れば、この子供たちは学校に行くことができるようになります。井戸を掘る資金は私達にとっては、大した金額ではありませんが、村にとっては、大変大きな金額です。

また、神奈川同窓会では、放送大学叢書の売上を通じて得た収益金を、全額、あしなが育英会に寄付しています。この寄付金は、ウガンダの子どもの就学など国際的にも使われますが、国内、特に東日本大震災で被災して就学困難になった学生を助けるためにも使われています。下村文部科学大臣は、あしなが育英会1期生で、あしなが育英会の支援で大学まで進学しています。私達は、放送大学で学べて、大変幸せです。是非、その幸せを隣人と分かち合うこともお考えください。

「先輩への報告」

平成25年度卒業

永井 藤樹



定年後の生き方を「晴耕雨読」に求めました。「雨読」は、放送大学で学ぶことです。在職中に入学を試みようとしたが、卒業が並大抵でないことがわかり断念しました。勤労と勉学の両立は、ともに挫折する恐れがあると判断したからです。

一方、農業に関わりたい思いもありました。それは私が農村出身でありながら農家ではないので小・中学生の頃、農繁期になると学校は家の手伝いのため休みになり、遊び友達もいなくなって寂しい思いをしたことが「農への憧れ」になって引きずっていました。そして、定年半年後の4月、放送大学入学と同時に市民農業大学にも入学し、こうして私の第二の人生がスタートしました。入学式が終わって勧誘されたサークルは、どこも魅力的で迷ったのですが、あるサークルの会長から「このサークルに入れば、勉強の仕方を教えてあげる」と言われ、即座に入会を

決めました。この方は後に、同じサークル内で最初の「名誉学生」になられた方でした。サークル活動は多種多様で、共に行動することの楽しさを味わい、多くのことを教えられる、教えてくれる友とは前歴に関係なく対等に語り合える間柄になっていきました。最初に「人間の探究」を専攻したのは歴史と文学を学びたいと思ったからです。島内先生の『徒然草』が最後を迎えていました。この情報も親しくしていた学友からで、薦められるままに受講し『徒然草の遠景』にのめり込んで行きました。閉講していた『徒然草の内景』を知り、印刷教材を求めカセットテープを借り自主学習に勤め、兼好法師の成長と共に自身の成長をも実感できる授業でした。また、卒業研究では近世史の杉森先生のご指導を仰ぎ、加賀藩の一支藩で蜂起した「百姓一揆」をテーマに取り組みました。夏の炎天下の北陸を一揆の足跡を求めて歩いた旅は、終生忘れられない思い出になりました。そして、この論文が思わぬことから「一揆で苦しんだ子孫」の方々に読まれ「先祖の苦労を偲ぶことができた」と、丁寧な礼状を戴くことになりました。

一方、市民農業大学は、市内の「緑化センター」での一年間の講義を終え、二年目に農家実習を経て、実習先の果樹農家に請われ、以来援農に励んでいます。詳細は同窓会のHP「私の農体験記」(2008.8.26)をお読み頂ければ幸いです。

「人間の探究」を卒業後、「社会と経済」、「発達と教育」、「自然と環境」を卒業し、この度「生活と福祉」を卒業するに際し、「名誉学生」の称号を戴きました。サークルへ勧誘して下さった今は亡き先輩へ、心の中で「先輩の後に続けた」ことを報告できたのが一番の喜びでした。放送大学を通し、良き先輩、同僚、後輩との出会いがどのように人生を豊かにしてくれるか、感謝の毎日です。これからも身体の続く限り、農を通しての地域への貢献と、生涯学習を続けていきたいと思っています。

放送大学と私



平成25年度卒業
佐藤 ひろ子

3月の学位記授与式から約2か月たった今も、放送大学卒業の喜びを素直に身体中で感じています。

岡部学長が言われたように、毎日頑張った自分を褒めてもおります。ただ正直言いまして大学の授業で学んだ事はもう曖昧になってしまっているものも多々あり、内容にはあまり深い印象はないのですが、大学で学んでいる方々の生き方の素晴らしさは心の奥底まで沁み入り、私のこれからの生活に大きな影響を与え続けて下さっております。

高校3年の時、ある先生が「大学とは、何をどの様に学ぶのかを学ぶところである」と、おっしゃいました。それ以後私の頭の中にはいつも大学という所に興味がありましたが、経済的な事情に加え「これからの時代は女でも手に職

をもって元気な内は働くべきである」という自分の信念に基づいて専門学校に行く道を選びました。専門学校を卒業後、衛生検査技師(現在は臨床検査技師)の国家資格を取り横浜市の大学病院に就職しました。

その頃女性は結婚したら退職する・妊娠したら退職する・出産したら退職するという時代で、私の職場・中央検査部には子供を産んでも働こうという女性は一人しかおりませんでした。(その時、そのご本人は妊娠中)「子供を産んでも頑張れるよね」と職場で先頭をきって頑張る彼女の後を追って私も次に続けと頑張って仕事を続けてきましたが、55歳の時に連合いに先立たれたショックでその日から職場に行くことが出来なくなりました。

半年間ほど休職しましたが復帰できる精神状態ではない事になり、これ以上職場の仲間に迷惑をかけたくないとの思いで退職することにしました。退職後毎日泣いて暮らしていましたが2〜3年経つと心の痛みも次第に和らぎ、ポーっとしてないで何かしなくてはという気持ちになってきました。

そして、責任ある仕事はもう精神的に出来ないけど得意のパン作りやお菓子作りでのボランティアなら出来そうな気がして市の社会福祉協議会に相談し、精神障害者の作業所でクッキーづくりを教えるボランティア活動を始めました。

放送大学との接点が幸運にもここにありました。作業所のメンバーさん(病気が安定して来て社会復帰の為に作業所に通っている方をこう呼んでいます)の一人に、放送大学に入学するという方がおりました。

少しお話を聞いて、私も即入学手続きをすることに決めました。こうして、いつも頭の中にあつた「大学とは……」の学びの場所を手に入れたのです。

私用で神奈川学習センターでの入学式には出席出来ず、入学直後は右も左もわからないでいる時に親切に下さったのが「放友会」の方でした。早速入会させていただき、不得手なパソコン教室にも参加させていただきました。

2008年の秋入学でしたが翌年2009年は7月と8月を除いてほぼ海外で暮らすことになり、大学生活はお預けになってしまいました。しかし、インターネットのお蔭で放友会は身近なものになりました。約1年間のその空白を埋めようと、その後、結構必死で授業を受けましたので結局は「大学とは何ぞや」の本質を探る事より卒業を目指しての単位修得に追われ、楽しい授業も結構ありましたが学びに関してはごく普通の受験生の様な生活になってしまった事は否めません。

30年前に創立された放送大学は、同窓会の諸先輩には百もご承知の様に、他の大学と大きく違う点は高校を卒業後当たり前の様に大学に行く同じ年頃の学生が多い場でなく、いろいろな事情で大学に行けない方・行けなかった方・専門学校や大学は卒業したが新たな領域での知識を得たい方など年代の違う方が一緒に学ぶ場であるという事です。

それ故「教養」という学びと共に、そこで学ぶいろいろな方々の人生が醸し出され加えられた他の大学にはない奥深い魅力があります。その魅力に捕らわれて、私もまた「心理と教育」コースに編入いたしました。今年はずっと学問に身を入れ、沢山本を読み、社会と学問と自分の接点を探したいと思っております。

大学院を修了して

平成25年度修了

桐ヶ谷 政行



定年が8年後に迫っていることを認識したある日、「自分としてやり残したことはないだろうか、現役でいるうちに何かできることはないだろうか。」と、自問するようになった。

その思いに50歳代を対象に職場が開催したライフプランセミナーが拍車を掛けた。

30年前に大学で法律を勉強し社会人となったが、その後カリフォルニア大学への留学、3年間のアフリカジンバブエでの勤務を経た後でも身体の中でくすぶり続ける不思議な思いが次第に強くなった。結論的にその問題を解決したのは、大学院で勉強することであると気がつき、最終的に選んだのが放送大学大学院であった。

当初社会人のための夜間大学院入学を目標に情報収集をしていたものの仕事のこと、金銭的なこと、肉体的な負担などクリアしなければならなかったことがたくさん出てきた。母校を含めて情報収集をしてもなかなか自分の都合に合う大学院が見つからなかった。

そしてあるとき市営地下鉄の弘明寺駅入り口付近に掲示されている放送大学のポスターに目が止まった。妻が放送大学に通っていたので放送大学のことは知っていたものの、大学院が併設されていること、相当安い学費で済むことを初めて知った。さっそく入学案内を取り寄せ説明会に出かけると、すでに自分の気持ちは放送大学大学院入学にシフトしていた。中東政治に関心があった私が研究課題を考えていると、妻が「それならば高橋和夫先生しかいないわよ。」と助言してくれたことを契機として高橋先生の放送大学の講義を視聴したり、著作を何冊か読んでみると、面倒な中東情勢をかみ砕いて講義してくれる先生の虜になり、「この先生の下で勉強して論文を書くしかない。」とまで思い詰めて入学試験に臨むこととなった。しかし、待ち構えていた最初の難関は30数年ぶりに挑戦する英語の試験であった。過去問題を見てもよくわからず事前対策をせずに試験に臨んだ問題は、東日本大震災で放射能漏れを起こした福島原発に対しIAEAが作成した6枚に及ぶ英文の評価内容に関するものであった。そして論文課題は「ジャスミン革命」に関するもので、中東・北アフリカ全域に広がった民主化の波、いわゆる「アラブの春」の発端となった2010年12月のチュニジアでの事件を記述する問題であった。そして2次試

験で初めて高橋先生直々の面接を受けることとなり、運よく合格した後の2年間を毎月一回のゼミを通して論文指導を受けることになったのである。ゼミでは大学院生の他、学部生、卒業生が加わった研究発表の中で、毎回相当の下準備をしていかないと追いついていけない鋭い質問、反対意見、修正意見などが飛び交う討論の場となった。その中でも仲間同士助け合い、自分の不勉強さを恨みながらも多くの本を読むことにより論文の内容を厚くしていくことができた。昨年12月に100頁に及ぶ論文を完成させた後の口頭試問、そして論文審査通過通知を受領したときの感激は決して忘れることができない。

30年前の大学卒業ではそんな喜びは感じることもなく、涙一つもなかったが、NHKホールで行われた学位記授与式で仲間達に会ったときは、思わず握手し合い、その喜びを分かち合わざるを得なかった。ゼミにおいても酒を交わすときも高橋先生から指導を受けた仲間達との2年間をいつまでも胸にして、今後もアカデミックな志を持ち、向上心をもって歩んでいきたい。学位記授与式で岡部学長が言われた「横棒の長いT字型人間」として、つまり縦ラインで基本(専門)をしっかりとしさせながらも、専門バカではなく横ラインに広がるあらゆる分野にも柔軟性を発揮できる人間としてこれからも歩んでいきたい。

卒業してしまっ！

平成25年度卒業

印南 英敏



放送大学が設立された頃、面白そうだなとは思っていたが、なかなか「入学」とまでは踏み込めなかった。しかし、自ら動かないと何も起こらないと気持ちを切り替え、1992

年に選科履修生として入学した。

そこで受講した面接授業でたまたまグループ討議があった。いろいろな経験を積まれた方々と議論をしている中で、仕事中心の自分の世界がいかにか小さいかを思い知らされ、人、言葉との良い出会いがなんと素晴らしいことかと実感した。また、すっかり古ぼけた自分の知識も、一流の先生から最先端の知識を教えていただくことで蘇るのではとの思いから、翌年、全科履修生として再入学した。

勤めがあるため、試験日が土日曜日の科目、面接も土日曜日開講の科目で興味がある科目を、専攻に関係なく選び15単位/年のペースで受講していた。ただ知識欲を満足させていただけのようだったが、当時は自動車、家電メーカー等多くの業種の方と一緒に仕事をする機会が多く、授業で得た知識が大いに役立った。また、必須科目の体育実技で履修したグランドゴルフで千葉本部に行く機会があり、時間に余裕があったので付属図書館を覗いてみて驚いた。蔵書のすばらしさと共に卒業論文作成のための個室まで用意されていた。こんな設備が

整った大学を卒業するのはもったいないと思い、それから卒業に必要な単位を獲得しそうになったらコース・専攻に変えて卒業せずに学習を継続したため、結局そのすばらしい個室は利用できなかった。

8年前に退職し時間に余裕が出来たので、大学との付き合い方を学習中心から、入学時考えていたが実現出来なっていた「さまざまな経験をされた多くの方と接することにより自分の世界を広げること」を目標とした。

まずセンター内では同好会に入ることにした。そして選択したのがダンスサークルである。翌年同じ「良い出会いを求めて」世界一周クルーズを計画していたが、クルーズ

ではダンスが出来ないと困ると思ったからである。サークルに入ることにより他のサークルの多くの方との良い出会いもあり、今は学園生活を楽しんでいる。

また、他の学習センターで開講しているその地域特有の面接授業(青森の白神、宮城の多賀城、和歌山の梅等)を積極的に履修することにより、他のセンターの方ともお話をすることができた。

22年間の大学生活をだらだらと記しながら感じたことは、「自ら求め、動けば、放送大学は必ずそれに応じてくれた。」ことである。やはり、卒業するのはもったいない！！

**放送大学
創立30周年
記念**

学位記授与式・祝賀パーティ



NHKで学歌を歌う

神奈川県合唱団 赤松 孝子

私たち神奈川県合唱団は美しいハーモニーを作ることを一番大切にして練習をかさねてまいりました。

今回在学学生、卒業生、先生方と職員の総勢60名の方々と歌うことになり、みんなの心をつなぐことの難しさを感じましたが、無事に終えることができました。

祝賀パーティあれこれ

神奈川県同窓会 高橋 照夫

銘酒コーナー



30周年記念の目玉は銘酒コーナー。

全国のセンター所長寄贈の50本の銘酒がズラリ。飲み比べの人々で押し寄せ、たちまち空瓶の山となりました。

クラシック演奏

トリオ「アリエッタ」(ピアノ・バイオリン・チェロ)クラシックのおなじみの曲を生演奏。優雅な調べで祝賀会を盛り上げてくれました。



ステージインタビュー

大木 陸夫

司会のアシスタントとして主に卒業・修了生に喜びの声をインタビューしました。どう聞き出すか、その人の卒業、修了までにどんな思いや、家族をはじめ周囲の応援があったのか、これからどう生かしていくのかなどを聞き出せたらと思いながらの緊張の時間でした。



《新しい連絡網がキックオフ》

岡本 興和

2014年4月29日(祝日 火)に神奈川県同窓会の新『波濤ネットの会』が開局宣言され交信が始まりました。これは2007年11月にyahooグループのメール網として開設して以来、7年間の長きにわたって利用し、2014年5月28日に終了した後継メール網です。

表示名は波濤ネットの会

英字名はhatoh-net@ijjnet.or.jp

会員200名 2014/5/24現在。

新「波濤ネット」の特徴は次の通りです。

- 高性能のウイルスプロテクションが搭載されました。
- メールに添付できるファイルサイズが大きくなりました。
- 迅速に確実にメールを届けることが出来るようになりました。

株式会社インターネットイニシアティブ

Internet Initiative Japan Inc.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105

投稿写真展



サイパンの近くのロタ島で海底洞窟の上の穴から注ぐ光。
2003年ごろ
石橋正彦さん



富士遠望
保土ヶ谷の自宅から徒歩3分の場所
2014/1/27
横浜にありながら森もあります。
金田保男さん

波濤48号掲載の写真募集中!

お気に入りの写真をメールでお送りください。
30文字のコメント・撮影者・撮影場所・年月日
2014/9/25締切 波濤48号発行:2014/11予定
okow1439@hotmail.com 岡本興和宛

事務局だより

平成25年11月11日(『波濤』46号掲載)以降平成26年度春季入会者は下記の通り48名の方です。心より歓迎申し上げます。敬称を省略します。

江上哲夫	桐ヶ谷政行	高川弘一	小石川昇
秋本功子	目黒和加子	喜瀬憲一	藤牧悦雄
吉原 勝	佐藤紀美	高橋哲治	小河由美子
小林良夫	山口一雄	時崎文夫	臼井芳枝
田村千草	清水丈正	天野佳将	梅津泰宏
後藤初江	北川和磨	二塚克己	横手美保
櫻井正友	吉木靖治	三田 智	河崎 司
板倉昭子	佐藤昭彦	和田美代	小川京子
沖田紀子	片野眞明	根本 修	十文字貞夫
佐川昌隆	清水あかね	大橋陽子	佐藤ひろ子
平野陽子	柳田芳明	與安史子	田中優子
飛田フミ子	河上浩子	藤田耕作	岩月慶子

神奈川県学習センター「名誉学生」のお知らせ

佐藤 浩一 永井 藤樹 大出 鍋藏

[kanagawa way]活動

放送大学における同窓会活動の理想像を目指すkanagawa way活動を着実に推進しています。

☆[昨年度発足]①茶道同好会②映画研究同好会③太極拳クラブは軌道に乗せる事が出来ました。

☆[波濤ネットの会]メーリングリストの更新を行いました。

☆[今年度新企画]『ホームカミング デー』の新設

「フェスタ・ヨコハマ」の初日に「卒業者が安心して帰って来る事の出来る場所」を計画しています。「茶道同好会」の皆様が「お抹茶」でおもてなしをして頂けるとの事です。

年会費納入のお願い

例年総会案内と一緒に年会費「払込取扱票」を同封しておりますのでご協力の程お願いいたします。

口座番号・年会費金額等は下記の通りです。

口座名 神奈川県同窓会
口座記号番号 00250-4- □□16083(右詰め)
年会費 1,000円(送料はご負担願います)
お問い合わせ 金田 保男 Tel.045-333-4426

訃報

奥津 尚男様 小清水 四郎 様
お悔み申し上げます 合掌